

真瀬溪谷山腹水路の保全と 中山間地域（八森）の農業



(株)真瀬ファーム
山本 優人

1

白神山地の山麓



白神山地の湧水・源流



秋のブナ林



清流真瀬川河口



2

文政11年(1828年)
冷害で収量減・米価格が倍額

天保3年(1832年)着工

天保4年冷害による大飢饉
50haの灌漑

赤岩堰

天保年間は凶作の打ち続いた頃である。

一俵十九銭だった米が、文政十一年から急に倍増の

三十銭代にはね上がった。天保年間に入ると、

打ち続く凶作に諸国は飢餓となり、百姓騒動

のみか、米騒動へと続いて行く。殊に、前年から

続いた凶作で、天保四年(一八三三)は

「厄年のけちち」とも言われ未曾有の大飢饉だった。

高二九二、二八五石余の損耗、およそ八割五分の

減収だった。

こんな時(天保三年)に、松野勘之丞は、

真瀬川の右岸、赤岩から引水し、バコ山を迂回して

山内沢を乗り越え、羽黒山の山裾を通り延命寺沢に

連絡する約5kmの用水堰を完遂、横間、滝ノ間の

壑田五十町歩が灌漑されたのである。

むろん、それ以前に滝ノ間の武田曾兵衛による

開田もあった。

昭和七年赤岩堰ができた百年祭に横間部落で、

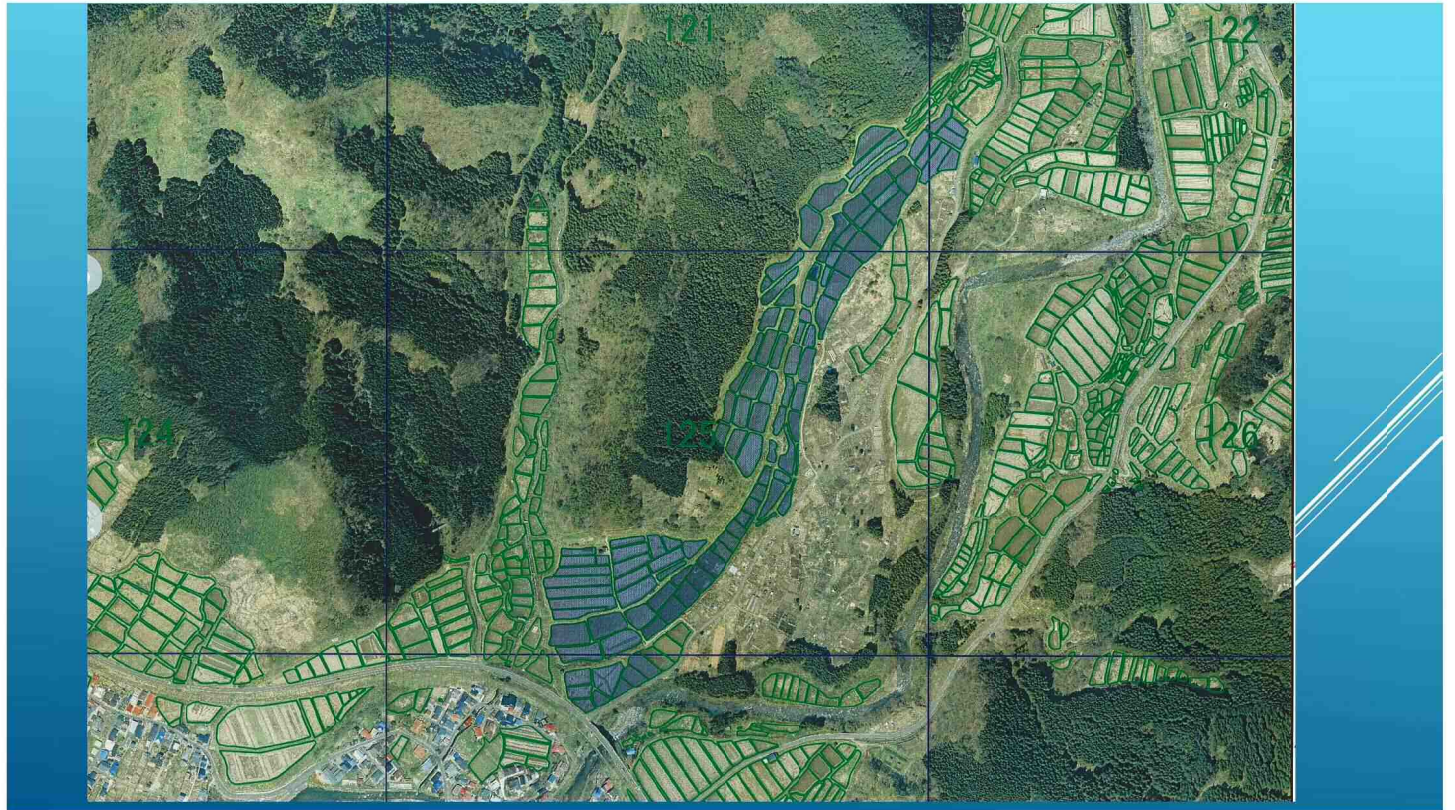
この碑を建立した。

平成五年三月

八峰町教育委員会

昭和30年代の農作業







真瀬地区営農規模

キャベツ1ha



水稲20ha

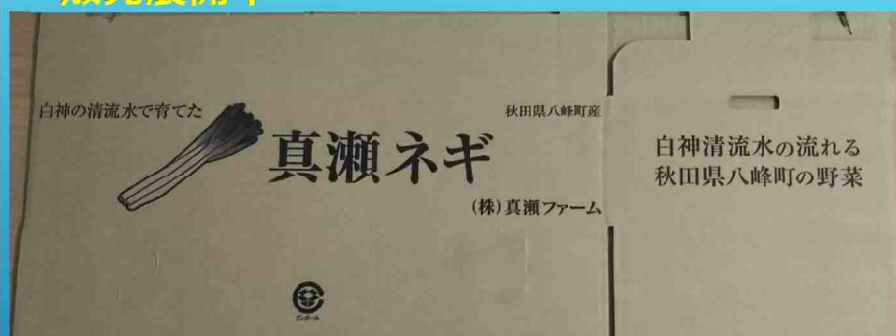


ネギ2ha

リンドウ0.1ha



真瀬ブランド名で 販売展開中



先祖伝来の真瀬農地で育てた
地元の野菜や米を食べ、地元で
生活していくために、真瀬農地
を維持・管理していく

地元で農業を続けることは
地域の雇用で定住人口を維持
すること

地域の活性化

ご静聴ありがとうございました